

南陽市自分ごと化会議 2025 第2回 議事概要

日時	2025 年 11月8日(土) 13 時 30 分～16 時 45 分
場所	沖郷公民館 多目的ホール
コーディネーター	神奈川県逗子市 福祉部長 石井 聡

・委員意見

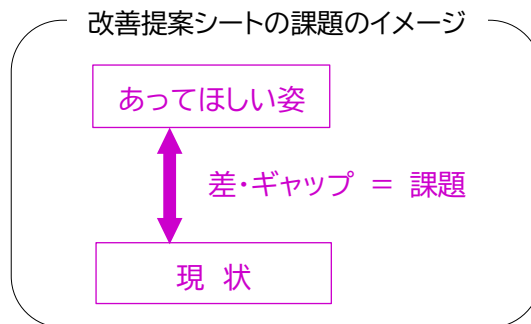
→市役所(回答・補足等)

→コーディネーター(補足等)

概 要

【今回の流れ】

1. 第 1 回の振り返り
2. 深堀り、新たな意見・アイデア
3. 改善提案シートの記入
→(別紙、右の図参照)



【はじめに】

- ・11月2日に「使用済小型家電とカーバッテリーの無料回収」を実施し、約1000人がパソコンや携帯電話等を持参。市民持参型で品目を限定している点が良い。
- ・本会議では、市民と行政がお互いwin-winな関係でいるにはどのような方法があるか、アイデア出しをしていく。

【委員自由発言】

- ・前回会議で話になった「電気式生ごみ処理機」に興味を持って、市役所で助成制度のパンフレットをもらった。生ごみの処理が1番大変。特に、夏場のすいかは捨てる部分が大量で、水分量も多い。
- ・「電気式生ごみ処理機」について調べてみたが、値段に幅がありどれも高価。6人家族ではどういふものを買えば得するのか分からず、購入に向けて前向きになれない。
- ・子どもや高齢者向けに、ごみの分別方法の周知やリサイクル率向上を目指して、袋に写真や絵を入れてわかりやすく広報するといったのでは。
- ・袋に企業広告を入れることで、広告費として資金を捻出できるし、「きれいなまちづくりに協賛しています」等の記載があればその企業にクリーンなイメージが付き、お互いwin-winではないか。氏名記入欄付近にあればなお良し。

→可燃ごみ袋(大)で4枠募集している。

・小学生の夏休みの課題として、標語やポスターを募集してはどうか。

→平成22年度より置賜地域の小・中学生を対象に「廃棄物の適正処理・3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進ポスターコンクール」を実施している。

→逗子市では、指定ゴミ袋に掲載する標語とイラストを募集している。

・この会議でゴミに対する意識が高まった。職場では分別をしたり、普段の買い物では極力ゴミが出ないような買い物をしたりするようになった。燃やせるものは小さくまとめ、ダメにしがちな野菜はカット野菜を買うようになり、生ごみが減った。

- ・ごみ処理業者の困りごとやコメントを共有してはどうか。ドレッシングの液体が飛んでくること、充電式リチウムイオン電池は発火する危険性があることなどを聞く。
- ・芸人やアイドルがゴミに関して情報発信しているのを見た。
- ・生ごみの水分量を減らしたとしても焼却灰は減らない。全体の排出量を減らすには、1番は食品ロスとだ思う。
- ➡可燃ごみの約3割が食品系廃棄物。
- ・普段使っていない調味料やレトルト食品を頂くことが多い。フードドライブでは賞味期限が1カ月以上ないと回収できない。
- ・フードドライブは市でもやっているのか。
- ➡随時、市民課環境係で受付し、必要としているところに寄附している。その他、ゼロカーボンフェスタで配布している。消費者の会でもフードドライブを実施し、社会福祉協議会を通して寄附している。バザーも実施している。
- ・いつか食べようと思って保管していると、いつの間にか賞味期限が近づいてしまっていてフードドライブができないでいる。還元等のメリットがあれば早めに検討できるのではないか。
- ・スーパー等でもフードドライブをしているのを見たことがある。
- ・学校給食では、クラス単位で鍋に入ってくるが、自分のクラスでは1回も完食したことがない。残したものは、お汁缶にまとめて入れるため、もったいないと感じていた。
- ・宮内中学校には給食センターがあるため、余ったりんごやみかんが多く来る。女子生徒は、体型を気にするようになり、盛る量を少なくしたり、友達とパンを半分にしたりしていた。余ったものは持ち帰れないため、クラスに配る量をもっと少なくしても良いのではないか。
- ・家庭内で買い出し担当のため、家を出る前にチラシと冷蔵庫を必ず確認している。冷蔵庫に残っているもので作るものを考えるようにしている。
- ・値引きされている夜の時間帯に買い物をして、安いからとつい買いすぎてしまう。結果的に食べきれずに捨ててしまうことが多い。
- ➡スーパーの商品棚の手前にある賞味期限・消費期限が近い商品を取らず、奥にある新しい商品ばかり選べると、古い商品が売れ残って廃棄されて食品ロスが増えてしまう。
- ・小さい子どもがいると食品ロス以外にも、紙おむつなどゴミが増える。モノも壊れていくし、ティッシュなどいたずらされる。
- ➡紙おむつは可燃ごみ。南陽市では「指定ごみ袋子育て支援事業」として、0～2歳児1人につき、年間40枚(4袋)の指定可燃ごみ袋(大)と引き換えできる引換券1枚を配布している。
- ・プラモデルを作る際、プラごみが大量に発生する。製造企業で回収しているようだが、他にいい方法があれば教えてほしい。
- ・猫を飼っていて、トイレの砂ごみが減らせない。2週間に1回は砂を入れ替えている。最近は猫を飼う人が多くなったように感じる。
- ・分別方法がわからないものは可燃ごみに入れている。各家庭でどこまで取り組むか、家庭内での線引きが不透明。
- ・年4回千代田クリーンセンターへごみを持ち込んでいる、捨て方が分からないものはその

場で聞いて捨てている。

➡各家庭で、分別を意識付けすることでお得なことは2点。可燃ごみと不燃ごみは千代田クリーンセンターにて焼却処分されるため、焼却灰は最終処分場に埋め立てられる。可燃ごみに紛れ込ませていた段ボールや新聞紙はリサイクルへ、可燃ごみと不燃ごみに紛れ込ませていたプラスチックはプラごみへ分別することで、最終処分場への影響が軽減される。ゴミの重量を減らすと、南陽市が置賜広域行政事務組合に支払っている負担金が減る。

・可燃ごみと生ごみを分けるのはどうか。

➡長井市で実施している。

・庭の木・葉・枝のゴミは可燃ごみに入れるか、千代田クリーンセンターに持ち込んでいる。ほかに燃やす以外の方法はあるか。

・5が付く日を「ごみを考える日」にして、市民一人ひとりが意識付けできるようにしてはどうか。数値目標を定め、みんなで取り組む。

➡不法投棄月間を定めている。

・不燃ごみの収集日は2か月に1回しかないため、捨てるのが億劫になるし、捨てるのを忘れてしまう。

・不燃ごみはゴミステーションを限定して、収集日以外に回収する場所があるといい。

・ゴミ出しの時間を守らない人がいる。臭いも気になるし、熊被害も懸念される。

➡ルールとしては、収集日の朝6時～8時までの間に出すことになっている。

・以前スーパーの駐車場で廃品回収トラックが来ていたが、今はないのか。

➡各民間業者が実施しているもの。